

## 平成30年度 農林水産業版タウンミーティング（水産業版）会議概要

日 時：平成30年10月16日（火）15：00～16：30

場 所：青森市漁業協同組合 2階 会議室

参加者数：25名

市側出席者：市長、農林水産部長、環境部長、農林水産部次長、環境部次長、水産振興センター所長、環境部参事廃棄物対策課長事務取扱、環境部参事清掃管理課長事務取扱

### ■主なご意見・要望等

○漁業資材の廃棄処分について、漁協や漁業者個人が焼却炉を設置する場合、一部補助の実施の考えは市ではあるか。

処分費用の補助、産業廃棄物を広く引き受けて処分してくれる処理施設を市で建設・運営するなどを、市で取り組む考えはあるか。

⇒小型のごみ焼却炉の一部補助、産業廃棄物処分費用の補助、産業廃棄物処理施設の建設・運営などを行うことは困難であると考えているものの、本市水産業の発展のためには、漁業者の皆様が安心して漁業を営める環境づくりが重要であると考えていることから、漁業資材の処分について、青森市漁協、後潟漁協と緊密に連携し、必要な情報収集を行い、その提供に努めて参る。

○ホタテ養殖漁業で発生する残渣を青森市一般廃棄物最終処分場で埋立処分をしている。この処分場も近い将来いっぱいになってしまうと聞いているが、今後将来的にどう対処するのか聞きたい。

⇒最終処分場の埋立容量については毎年、残余容量等を把握しているが、ホタテ残渣については、市町村が処分しなければならないことから、今後も制限なく受け入れていくとともに、同処分場の長期供用化にも取り組んで参る。

○現在、一般廃棄物最終処分場にホタテ残渣を10kg100円で処分してもらっているが、今後もしばらくは制限が無く受入可能なのか。また、料金の値上がり、値下げは検討にあるのか。

⇒手数料の見直しについては、「青森市行財政改革プラン2016」に基づき、全庁的に見直しを行うこととしている。

また、ホタテ残渣については、市町村が処分しなければならないものであり、今後も制限することなく受け入れて参る。

○市が以前実施していたような共済掛金の一部を補助する事業を復活する考えはあるか。

⇒補助事業の実施は考えてはいないが、今後、平成22年の高水温被害のような災害等が発生し、漁業者の経営状況に大幅な変化が生じた際には、漁業者の経営再建に資する市の支

援について、緊急性・重要度を踏まえて、総合的に検討して参りたい。

○今後も水産振興センターにおいて、稚ナマコの生産業務、マボヤ種苗の生産試験の継続をお願いしたい。

⇒市では、ナマコ、ホヤは本市水産業の経営安定にとって大変重要な魚種と捉えており、今後も、水産振興センターではナマコ種苗の安定生産に努めるとともに、陸奥湾産マボヤについても、今後の生産数の増加を見越し、種苗の効率的、かつ安定的な生産が出来るよう、引き続き種苗生産試験に取り組んで参る。

○「陸奥湾マボヤ」のPRや販路拡大について、更なる知名度向上や付加価値が付くような取組をお願いしたい。

⇒市では陸奥湾産マボヤの魅力を再確認しながら、マボヤそのものの付加価値を高めるための取組や地域ブランド化のために何が必要なのかなど、関係者の方々と情報共有を図り、共にスクラムを組みながら取り組んで参る。

○市産ホタテは八甲田からの豊富な栄養が流れ込んだ海で育っているので他に比べて甘みがあると評判であるので大いにアピールして、飲食店等と連携した取組を行なえば観光客にも喜ばれると思う。

⇒平内町のホタテ活御膳が好調であるが、青森市は青森市らしい独自の仕掛けを考え、工夫して行なって参りたい。

○県管理海域の青森港に沢山のナマコが生息しているという話を聞いた。そのナマコを採捕して、各漁業の海域に放流すれば資源が増えて良いのではないか。

⇒実現可能かどうかも含めて確認、研究して参る。